



北海道動物霊園 のルーツ

ほっかいどうどうぶつれいえん とよひらしゃおくとなり けいおうじ まつい
北海道動物霊園は豊平社屋隣にあります経王寺の松井
ぎかいしょうにん じゅうしょく ころ せつりつ
義海上人が住職の頃に設立されました。
どうぶつ くよう いた けいい ほっかいどうどうぶつれいえん
動物の供養をするに至った経緯や、北海道動物霊園が
せつりつ はな けいおうじ た ころ
設立するまでのルーツをお話するには経王寺が建てられる頃ま
こと
でさかのぼる事になります。

けいおうじ めいじ ねん ねん まついかんぎしょうにん た
経王寺は明治8年(1875年)に松井寛義上人によって建て
てら た どうじ げんだい
られました。お寺を建てることになった当時ですが現代のように
かんたん
簡単にはできませんでした。
どうじ など くるま けんせつよう もくざい
当時トラック等の車はまだありませんので、建設用の木材な
ばしゃ じょうざんけい はこ
どは、馬車で定山溪から運んでいたそうです。

ひ ざいもく はこ ばしゃ
ある日のこと、いつものように材木を運んでいると、馬車は
とつぜん おおあめ おそ てら つか ざいりょう なん
突然の大雨に襲われました。「お寺に使う材料だ！何として
まも しょくにん うま ひっし もくざい はこ
も守るんだ！」職人さんも馬も必死になって木材を運びます。
すこ あんぜん ばしょ さいご もくざい はこ お ひ
「もう少した！」安全な場所まで最後の木材を運び終わると、引
ぱ うま かわ なが な
っ張っていた馬が川に流されて亡くなってしまいました。

とよひら おも とうちやく しょくにん なに
豊平までやっとの思いで到着した職人さん。何があったの
かんぎしょうにん はなし てら ため うま いのち
かを寛義上人にお話します。「この寺の為にその馬は命をか
な うま てら とむら
けてくれたのか…その亡くなった馬をこの寺で弔いましょう」と
ばとうかんのん まつ
「馬頭観音さま」をお祀りしたそうです。

てら かんせい すうねん のち めいじ ねん ねん ねん ばとうかんのん
お寺が完成した数年の後、明治19年(1886年)に馬頭観音
せきぞう せきひ つく げんざい ほんどう なか ほうあん
さまの石像と石碑を作り、現在の本堂の中に奉安しました。
とうじ さっぽろ おも こうつうしゅだん うま たよ
当時の札幌の主な交通手段は馬に頼っていたので、
ばぐや ていてつ つ かじや うま
馬具屋さんや蹄鉄を付ける鍛冶屋さん、もちろん馬そのものを
あつか うまや たくさん てら まわ うま かんけい
扱う馬屋さんも沢山あったそうです。お寺の周りにも馬に関係す
みせ
るお店がありました。

うま とうぜん い もの な とぎ
馬は当然生き物ですから、いつかは亡くなる時がきます。そう
か ぬし かたがた けいおうじ き せわ うま
すると飼い主の方々は経王寺まで来て、お世話になった馬たち
かんしゃ きょう ささ どうじ しいく うま
へ感謝のお経を捧げるようになるのと同時に、飼育している馬
けんこう びょうき ねが かた じょじょ ぶ
たちが健康で病気をしないようお願いをする方が徐々に増え
てきたそうです。

じだい くだ しょうわ ねん ねん まついぎ かいしょうにん
時代は下り、昭和25年(1950年)、松井義海上人が
じゅうしょく ころ さっぽろしない うま ばぐ かんけい ひと やく
住職の頃、札幌市内の馬や馬具に関係する人たち約
ろっぴやくにん さっぽろあいばこう なまえ あつ つく げんざい
六百人が「札幌愛馬講」という名前の集まりを作り、現在
かんのんどう ばしょ どう あら た
観音堂がある場所へお堂を新たに建てました。

こうして馬の供養からはじまった動物の供養ですが、松井義海上人はとても動物が好きで、「ペットの最期を人と同じように見送ってあげたい」「野良猫や野良犬たちの供養もしてあげたい」という思いをお持ちだったそうです。

ご生前はお寺に集まる野良猫ちゃんにご飯をあげて過ごされていたとお伺いしております。

昭和53年(1978年)に、その優しい思いが形となり北海道動物霊園を設立される事になりました。

生きとし生けるものすべてを愛する優しい住職だからこそ、皆が頼り、お祈りをする事で多くの魂は天へと向かうことができ出来たのではないのでしょうか。

義海上人がお亡くなりになってから長い月日は経ちましたが、義海上人は今でもご浄土にて皆様のペットちゃん、そしてすべて動物達の事を見守ってくださっているのです。